JICA エッセイコンテストを地理的分野の学習に位置づける！

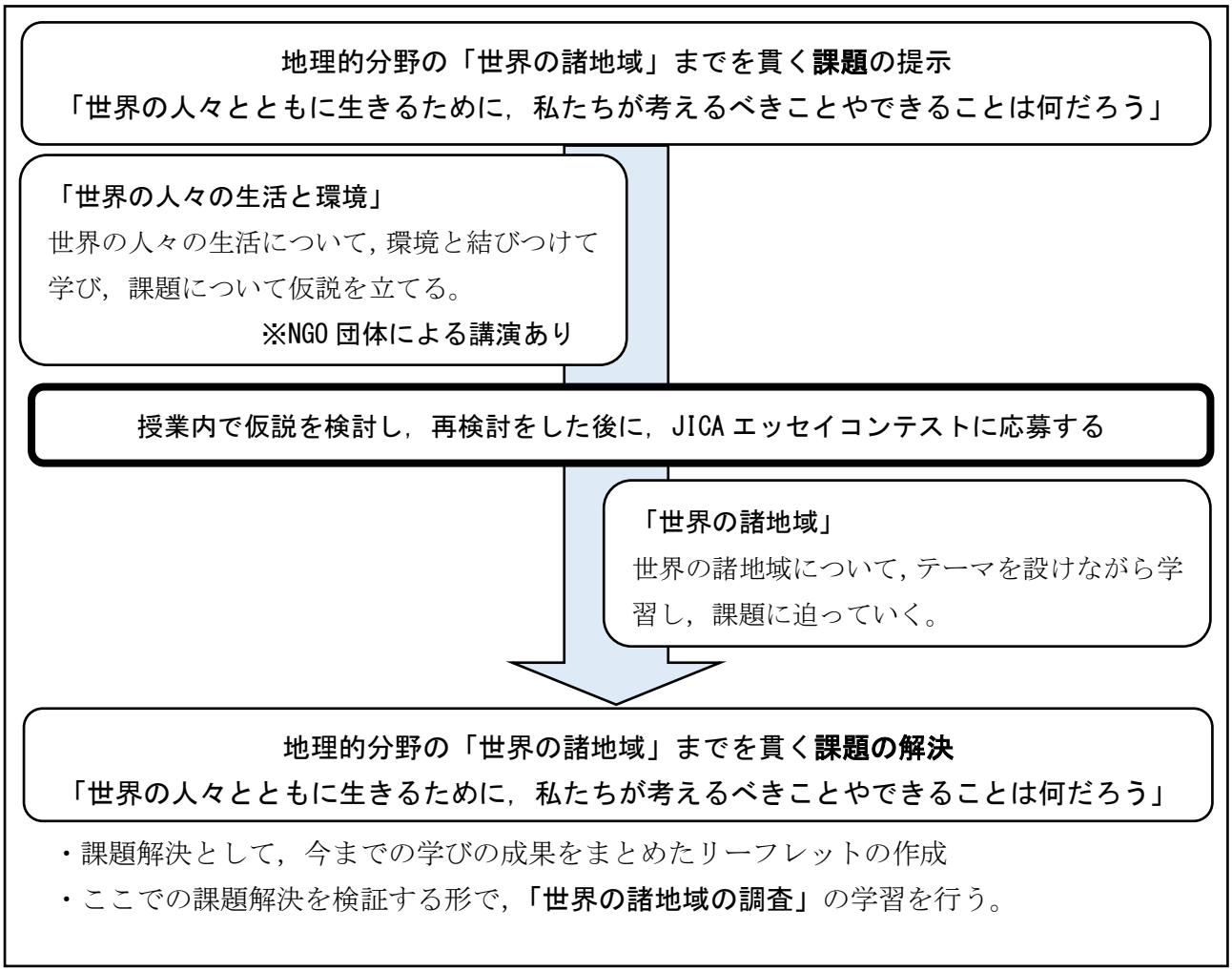
横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校　社会科　戸沼　雄介

「先生、こんな本を見つけました。」ある女子の生徒が,授業後に一冊の本を持ってきてくれた。タイトルは『世界がもし 100 人の村だったら』。「その本のどんなところが印象に残ったの？」と訊いてみると,彼女はこのように返してきた。

「世界をもし 100 人の村にすると 14 人は文字が読めないと書いてあります。これは誰もが共に生きていくためには,あってはいけないことですよね？」

今年度の JICA エッセイコンテストのテーマは,「世界の人々と共に生きるためにー私たちの考えること，できることー」。このテーマは、平成 29 年 6 月に文部科学省が示した新しい学習指導要領の**「世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入」**（持続可能な開発目標〔ＳＤＤＧｓ〕などに示された課題のうちから，生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題，人口・食料問題，居住・都市問題などに関わる課題を取り上げること）に合致する。また，このような課題について考えることは，新しい学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力」の一つである**「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」**に深く関わり，**「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」**という力の育成にも有効である。以上のことから，本校では，以下の図で示したように，このエッセイコンテストを社会科の 1 学年 地理的分野の学習単元計画に位置づけて，取組をすすめてきた。

図　本校 1 学年 地理的分野の学習の流れ



（実践をしてみて，感じたこと）

❶ 子どもたちが「意欲的に」課題について考える

この実践には，「エッセイコンテストへ参加する」という明確な中間目標があったため，課題について話し合う場面では，言わば子どもたちは「一緒にエッセイコンテストで意見を発表する」同志となって，積極的に意見交換をしている姿が目立った。

「なぜ，そう考えたのですか？」「こういう考え方もあるのでは？」子どもたちは意見交換を通して学びを深め，課題解決に向かっていった。

❷ 子どもたちが「自主的に」動く

エッセイコンテスト応募を控えた８月。夏休み中に JICA 横浜で，中学生も参加できる**「ひらめき！ぼくらが考える途上国の未来」**というイベントが開催された。このワークショップを紹介したところ，興味をもつ子どもが多く参加し，その学びを活かしたエッセイ作品を完成させた。課題をしっかりと捉え，その解決のために「自主的に」動こうとする生徒の姿が見られたことは，担当者としても非常に嬉しいことであった。

本校生徒が参加した，JICA 横浜でのワークショップのようす

（写真）JICA 横浜 WEB サイトより

❸ 「学びの成果」を結びつける

意欲の高まった子どもたちは，さまざまな場面で「学んだこと」を結びつけて考えるようになっていった。「世界の諸地域」のヨーロッパ州の学習で，移民・難民問題を取り上げたとき，「紛争を止めさせることはできるのか」という疑問を子どもが出し，教室が白熱したことがあった。その時の子どものやりとりが，以下のようなものである。

「政治が安定しないと，支援をしてもうまくいかない。介入してでも紛争は止めさせるべきだ。」
「世界の状況をみると，紛争はいつでも起こっている。結果として，介入はうまくできていない。」
「その地域に住んでいる人が，変わりたいと思えば，必ず変わるはずだ。」
「でも，変わりたいと思う気持ちを起こさせるために，私たちが何をできるのか，が問題だ。」
「今“世界の人と共に生きるために”という大きなテーマで考えているけれど，やはり<u>あってはいけない違いが世界にはある</u>。それを乗り越えていくために，何ができるのだろう。」
「やはり，まずは世界の状況をしっかりと知り，伝えていくことかな…。」
「道徳の授業で知ったフェアトレードは？商品を買うことで，継続的に関わることができる。」

紛争から始まった話が，世界の格差の話に，そして「できること」の話へと変化していく。様々な学びから感じたことを子どもたちは心に留め，それを結びつけて考えを深めている。単元を貫く課題を JICA エッセイコンテストから設定したことで，子どもの学びが深まっている。

（まとめにかえて）

JICA エッセイコンテストのテーマを地理的分野の学習とリンクさせることで，子どもたちは明確な目標を持ち，学習を進めることができた。エッセイコンテストは，言わば子どもの思考を働かせる「エンジン」のような役割をしていた。

来年度は「日本のさまざまな地域」に関する学習が中心となるが，世界の学びで身に付けた「地域を見る視点」を活かしながら日本を見つめるような学習を行うことで，さらに子どもの学びを深めていきたいと考えている。